

【校長室便り】

No.49

H31年2月22日（金）土佐町小中学校 谷内宣夫

感動する話 PART 2・3

「お父さんの血」

私の両親は自営で小さな喫茶店をしています。

私はその一人娘で、父は中卒で学歴がありませんが、

とても真面目で一生懸命働いてくれました。

バブルがはじけて、景気が悪くなり、父は仕事が暇な時間に、お

店を母に任せて、バイトに出るようになりました。

景気はどんどん悪くなり、お店はモーニングやランチの時間

以外はガラガラ、結局バイトも掛け持ちすることになりました。

一つ増え、二つ増え、最も忙しいときは、朝モーニングの時間

はお店に出て、それが終わったら弁当の配達、そして再びランチ

をこなし、その後宅急便の配達に。

それが済んだら喫茶店の閉店処理。

月曜から金曜までそうやって過ごし、土曜日は一日酒屋の

配達のバイトに行き、日曜日でもアルペンという店で

荷物運びのバイトをやっていました。

足も肩もいつもパンパンで、母が夜よくマッサージをしてい

たのを覚えています。

50代で細身の父が休む間もなく、私の学費と住宅ローン、

家族のために働いてくれました。

私は今、結婚して親になって本当に思う。

お父さん凄すぎるよ。

おばあさんの葬式の時、酔っぱらった父が「おまえのためなら何

でもできる。たとえ火の中にもおまえのためなら飛び込める

ぞ。」と言った言葉は本気だったと思う。

家族のためにあんなに一生懸命になれる人を、

私は他に知りません。

私にも働き者のお父さんの血が流れているんだから、どんなこ

とでも乗り越えていこうと思います。

また、できると思います。



「危ねーだろが」

今日、走ってくる自転車の前にふらふらと飛び出したおばあちゃんがいた。

ティッシュ配りのバイト中だった私がそれに気付いて危ない!

と思った瞬間には自転車の兄ちゃんが急ブレーキかけ

つ「危ねーだろがババア!」と怒鳴ってた。

確かに完全にそのおばあちゃんの不注意でのことだったんだけ

ど、でもそんなキツイ言い方しなくても...と、

思わず2人の間に割って入ろうとした。

だけど、私が「ちょっと...」って言いかけたその時に、その兄

ちゃんは「おめえーが死んだら孫とかじじいとか悲しむだろ

が!!」と。

あまりにも予想外だったその言葉に、私含め周囲は思わずポ

カーン。で、謝るおばあちゃんにその兄ちゃんは更に「うるせ

一な、いいから荷物かせ!カゴ入れてってやっから、貸せ!

つかケガねえのかよババア!ああ!？」と、

脅してんのか、気づかってんのかわかんない発言。

結局その兄ちゃんはおばあちゃんに付き添って来た道を引

き返していった。

カゴにはおばあちゃんの荷物。

ティッシュ配りながら2人をコソコソ見送ってたんだけど、お

ばあちゃんと兄ちゃんは何か色々しゃべっているみたいで、お

ばあちゃんも笑顔だった。

20分ぐらいしてから、再度自転車で戻って来たその兄ちゃん

にティッシュ渡ししながら「優しいですね」って言ったら、

「別に優しくねーよ!」とちょっと怒ったみたいに言われた。

でもその後、小声で「ババアやジジイを大事にすんのは別に優し

いとかじゃなくて普通のことだろがよ」と言ってるのもちゃんと

聞こえた。しかもちょっと顔が赤かった。

本気で惚れそうになった。

前号に続いて私が感動した「ちょっといい話」を紹介しまし

た。こんな父親、こんな兄ちゃんって、かっこいいですよ!

